家康の五カ国支配

織田信長の死

1582年3月、甲州攻めにより武田氏を滅亡させた織田信長は、戦いで活躍した武将に、武田氏の領国であった甲斐国・信濃国・駿河国・上野国などを与えました。

しかし、6月、本能寺の変※により、信長が死去すると、武田氏旧領国の支配は崩壊し、三河国・遠江国・駿河国を支配する徳川家康と、伊豆国・相模国・武蔵国などを支配する北条氏政との間に、甲斐国や信濃国などをめぐる争いが起こりました（天正壬午の乱）。

※ 家臣の明智光秀が裏切り、本能寺（京都府）で、信長を襲撃した事件

家康の五カ国支配

10月、天正壬午の乱が収まると、家康は、三河国・遠江国・駿河国に甲斐国・信濃国を加えた５カ国の大名となり、1590年まで治めました。

このとき、家康は北条氏の領国と隣接する河東（富士川から東の駿河国一帯）の防衛や治安維持を強化しました※1。

家康は、駿東郡の長久保城（長泉町）や、三枚橋城（沼津市）にいる家臣に、富士郡（富士宮市・富士市一帯）の支配や防衛を担当させました。

家康は、戦乱により不安定となった富士上方（富士宮市・富士市北部）や富士下方（富士市）などの立て直しを図るため、検地※2や用水路の開削、駿河国と甲斐国を結ぶ中道往還上の伝馬制度※3の再整備などを行いました。

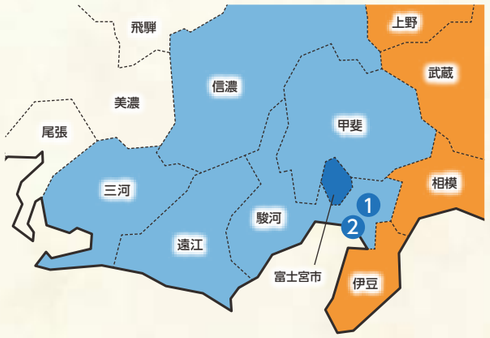
家康が発行した朱印状には、大宮浅間神社（富士山本宮浅間大社）などの寺社の復興や保護、さまざまな商売の振興について書かれています。

※1 天正壬午の乱の長期化を懸念した家康と氏政は、和睦の証として、1583年8月、家康の娘・督姫と氏政の子・氏直の婚姻関係を結んだが、家康は北条氏の動きを警戒し、軍備を固めた。

※2 水田や田畑の面積、収穫高、年貢（税金）を納める耕作者などを調べること。

※3 宿駅に人馬を常駐させ、宿場ごとに人や公用の荷物を交替して運ぶ制度。

家康の５カ国支配の頃の勢力図



徳川氏の支配地
三河（愛知県東部・中部）
遠江（静岡県西部）
駿河（静岡県東部・中部）
甲斐（山梨県）
信濃（長野県）

北条氏の支配地
伊豆
相模（神奈川県西部）
武蔵（東京都・埼玉県）
上野（群馬県）

1 長久保城
2 三枚橋城

▲徳川家康朱印状写（1583年11月20日/富士山かぐや姫ミュージアム蔵）

ゆかりの地

取水口
内野横手沢に設置され、その様子が江戸時代の北山用水絵図にも描かれている。

北山本門寺
甲州攻めの際、当時の貫主※・日出が本尊を家康に貸したところ、鉄砲から守られたと伝わる（鉄砲曼荼羅）。※住職

北山用水掛樋
大久保沢の深い谷の両側から、木製の樋を掛けて用水を通したとされる。

家康と北山（本門寺）用水

富士宮市は、富士山の湧水に恵まれる地域が多い一方で、水のない地域では、天水（雨水）に頼る生活が長く続いていました。江戸時代から明治時代にかけて、水のない土地を開発するために、芝川や潤井川などの河川や湧水を水源に、多くの用水が開削されました。

1582年、家康は北山本門寺の願いを受け、家臣・井出正次に用水路の開削を命じました。正次は、芝川の水を内野横手沢から引く工事を４カ月で完成させたといわれています。

この北山（本門寺）用水は、江戸時代には、北山のほか、外神、宮原、山宮、万野原新田まで広げられ、生活に必要な水を確保しやすくなりました。

▲江戸時代の北山（本門寺）用水絵図